

○ 本校の概要

○ 本校の規模 全8学級 児童数221名(4月1日現在) 教員数18名  
 ○ 教育目標 友達を大切にすること子ども 運動で体をきたえる子ども 本気で学ぶ子ども よく聞き話せる子ども  
 ○ 校内研究 研究主題 自分の考えを書くことで伝えられる子ども ~国語科の学習を通して~

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4:90%以上	【取組】 ○外国語指導員が中心となり、ネイティブな英語に触れながら外国語を使ったコミュニケーション能力を高めたことができた。 【改善策】 ●児童の実態を把握している担任が学習の計画を立て、T1として進めることで、指導と評価の一体化が図れると考える。事前に打ち合わせをして、ネイティブな外国語に触れさせるための1つのツールとして外国語指導員を有効活用している。 【取組】 ○各学級で電子黒板、書画カメラを活用し、視覚的な支援や児童の作品の共有に役立てた。特に一人一台のタブレット端末の活用では、オンライン授業や調べ学習、学級全体での意見交換、積極的に学習に参加できる環境を設定した。 【改善策】 ●タブレット端末を活用し、調べた内容を個人でまとめたり、プレゼンテーションしたりする機会を設定した。タブレット端末だからこそできる学習展開を設定して、事前にタブレット端末を組み込まれたプログラムについて教員間で研修を行い、有効活用できるようにする。	A 9 B 1 C 0 D 0	
		理論的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3:80%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4			2:70%以上
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4			1:70%未満
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:全教員で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4:全教員で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4:85%以上	【取組】 ○算数では、各単元ごとに学習内容の確かめとして「タブレットドリル」に取り組みせ、個々に振り返りの時間を設定して課題感を捉えることができた。 【改善策】 ●「ステップ学習チェックシート」をさらに有効活用し、個々に把握した課題となる単元の類似問題に取り組みせたり、反復練習を進めたりすることで確かな学力へと繋げていく。 【取組】 ○校内研究では国語科『書くことで伝える』を中心に、全クラスで研究授業に取り組みせ。また、言葉遊びを豊かにしたり文章の書き方を身に付けたりするための言語活動の充実に取り組みせ。 【改善策】 ●クロームブックの「MIM」を使用することで、言語に関する学習への意欲を高めたり、基礎基本を身に付けたりする。	A 9 B 1 C 0 D 0	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	4:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3:75%以上			
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	4	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	4			2:65%以上
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4			1:65%未満
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心や、未来への希望な心をばぐみします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:90%以上	【取組】 ○小中一貫教育の日を設定して、東蒲中学校、南蒲小学校と合同で授業観察を行い、学習面、生活面の情報交換を行うことで系統性をもった指導の実現に努めることができた。 【改善策】 ●教科分科会を細分化することで、より専門的に具体的な話し合い、情報交換を行う。 【取組】 ○学校生活調査の結果を基に聞き取りをして、個々の児童を抱えるストレスを解決できるように指導・助言をした。 【改善策】 ●面談実施後当該児童の様子を継続してみていく。また、結果を管理職・担任だけでなく、関わりのある教員とも情報共有し、必要に応じて保護者とも連携して対応をする。 【取組】 ○生活指導夕会以外にも、月1回のいじめ・不登校対策会議を開き、当該児童に対する情報交換と対応等についての検討した。年度当初から対策会議と指導を合わせて行ってきたので、必要に応じて臨時に会議を開いたり、児童の対応をしっかりとった動きがとれた。 【改善策】 ●今後も些細な問題にも丁寧な対応を行い、いじめの早期発見と早期対応に努める。	A 7 B 3 C 0 D 0	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3:80%以上			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4			2:70%以上
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:必要事項に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要事項に対しておおよそ会議を実施した。 2:必要事項に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要事項に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	4:必要事項に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要事項に対しておおよそ会議を実施した。 2:必要事項に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要事項に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4			1:70%未満
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、楽しい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4:90%以上	【取組】 ○「早寝早起き朝ごはん」月間ではチェックカードを用いて児童や家庭に呼び掛けたり、保健だよりや屋の放送(電子黒板での保健指導)で児童に啓発したりした。 ○歯の健康や感染症予防の手洗いなどについて健康委員会の児童がクイズやポスター、動画を作成し、全校児童に啓発する活動も行った。 ○栄養士によるバクバクだよりや食育掲示板の活用、食育だよりの配布、ホームページでの給食献立の紹介などを行った。 【改善策】 ●保護者会の際にも保健給食について触れ、より一層の保護者の理解と協力を依頼する。また、今年度以上に学校ホームページを活用して啓発活動をする。	A 6 B 4 C 0 D 0	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3:80%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4			1:70%未満
		感染症予防のために、「手洗い、うがい」の励行とともに、三密を避ける工夫、人と人との関わり方の指導等を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4			1:70%未満
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:90%以上	【取組】 ○各学年が年間1回以上、月1回の校内委員会を実施するとともに、必要に応じて臨時の校内委員会を開催し、特別な支援を必要とする児童の支援体制を検討することができた。 ○今年度は、学校公開と道徳地区公開講座を各1回実施することができた。どちらも保護者からのアンケート回収率をあげるとともにその意見を今後の指導に役立てることができた。 ○全クラスで研究授業と協議会を実施し、授業実践を共有して学び合うことができた。 【改善策】 ●校内委員会での話を全体で共有する時間(生活指導夕会)を設ける。また、校内委員会での決定事項を実践し、後日結果を報告する機会を設定する。 ●主任教諭が主となり、授業改善やICT機器操作の研修会などOUTを活性化させる。	A 7 B 3 C 0 D 0	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しLOJを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3:80%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4			2:70%以上
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4			1:70%未満
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4:95%以上	【取組】 ○「人の話をよく聞いて、自分の思いを上手に伝えている」に対する否定評価は低学年11%、高学年12%であり、他の評価項目と比較して高い傾向が見られる。 【改善策】 ●聞く力や伝える力を身に付けるための学習活動を今後も意識的に取り組んでいく。 【取組】 ○年度初めに教育目標・学校経営方針・学校評価などの基本情報を掲載した。また、定期的に子どもの様子などをホームページや学びポータルを活用して情報発信をした。 【改善策】 ●HP担当が分担して、子供たちの様子を発信する頻度を増やす。 【取組】 ○近隣工場の協力を得て、世界に誇れる大田区の技術を学び、紹介することができた。 【改善策】 ●ものづくりに関わる近隣工場との連携を深め、組織として計画的に進める。	A 9 B 1 C 0 D 0	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4			3:85%以上
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期1回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	4:学期1回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3			2:75%以上
									1:75%未満

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。  
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。